

「さいたま市総合振興計画審議会 第2部会」意見整理表

資料 1 - 2

＜健康・福祉の分野＞

施策1：子育てしやすい都市の実現

整理番号	意見の概要	修正案
1	横浜市は待機児童ゼロを実現したとのことである。「子育てしやすい都市の実現」と掲げるからには、子どもを預けながら安心して働くことができるシステムが必要である。	ご意見を踏まえ、4. 施策展開(3)家庭と地域の子育て力の向上に、<u>・待機児童の解消に向け、保育所や放課後児童クラブの整備などによる保育サービスの充実を図るとともに、そのための人材確保に取り組みます。</u>を追加します。
2	横浜市との比較分析などにより、しっかりと待機児童対策を推進すべきである。未来の市民に対するサービスの充実は、私たちの責務である。	
3	工程表を示すなど、市の目標と取組をわかりやすく伝える努力が必要ではないだろうか。ニーズに沿う保育所を検索するシステムなどの仕組みがあってもよい。	
4	市民が保育所を探すときに、空いている保育所を案内するコンシェルジュを置いてよい。	
5	保育園に関しては、母親が就業している、いないに関わらず希望があれば入園できる仕組みがあればベストではないだろうか。	
6	住みやすいまち・さいたま市を目指すなら、待機児童の問題に重点を置いて、子どもを持つ若い人にとって魅力的な環境づくりを進めるべきである。	
7	人口の増加に保育園の整備が追いつかない地域がみられる。両者のマッチングとともに、今後の保育園整備計画などをいち早く市民に周知する必要がある。	
8	待機児童がいる一方で、ナーサリールームなどは有料広告を出して園児を募集している。行政はそのような現状を把握しているべきである。	
9	保育士・幼稚園教諭について、資格を有していても働いていない人材の発掘も含めて、人材の育成についてもっと計画の中に記述すべきではないか。	

施策2：高齢となっても暮らしやすい都市の実現

整理 番号	意見の概要	修正案
1	「住み慣れた地域で」とあるが、他市から入ってくる人もいるので、「高齢者に優しい」など表現を工夫すべきではないか。	ご意見を踏まえ、目指す方向性の「住み慣れた地域で」及び4. 施策展開(2)の1つ目の・にある「高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていける」の「住み慣れた」の表記を、それぞれ「 <u>生涯にわたって地域社会で安心して長生きできる</u> 」「 <u>生涯にわたって地域社会で安心して生活できる</u> 」に修正します。
2	「高齢者が住み慣れた」はやや古いキーワードである。「住みやすさ」というものがあつた方が、他の地域から来る人にとって垣根の低いまちになるのではないか。	
3	子育て施策と同様に、介護職など資格を有していても働いていない人材の発掘も含めて、人材の育成についてもっと計画の中に記述すべきではないか。	ご意見を踏まえ、4. 施策展開(2)の2つ目の・に、 <u>そのための介護人材の育成に取り組みます</u> を加筆修正します。

施策4：心身ともに健康で活力に満ちた社会の創出

整理 番号	意見の概要	修正案
1	「多様化する保健福祉ニーズ」とあるが、現状は様々であるので、表現に工夫が必要ではないか。「多様化」だけでは平板である。	ご意見を踏まえ、4. 施策展開(1)の1つ目を、「 <u>多様化・高度化する保健福祉ニーズに対応</u> 」「 <u>効果的・効率的に提供する体制</u> 」へ修正します。

◎「成果指標」に関して調整部会において検討とするもの

施策	意見の概要
高齢	成果目標から見えてくる高齢者像に偏りがあるのではないかと。高齢の方々の多様な生活像は必要ではないかと。
障害	成果指標に疑問を感じる。施設入所者数を減らしたいものと理解できるが、その一方で一般就労数がわずかしか増えていない。
障害	退所からいきなり一般就労というのはギャップが大きいので、身近な地域の中に働く場が必要なのではないだろうか。
健康	かかりつけ医の有無を重視すべきだと思う。介護などの最初の入口としても、頼りになる医師が身近にいる意義は大きい。

◎「重点戦略」の検討の際に参考とするもの

施策	意見の概要
子ども	放課後児童クラブについては、単に児童を預かるだけでなく何をやっているかが大切で、しつけ・教育といった指導を充実できないかと感じている。
子ども	横浜市は待機児童ゼロを実現したとのことである。「子育てしやすい都市の実現」と掲げるからには、子どもを預けながら安心して働くことができるシステムが必要である。【再掲】
子ども	住みやすいまち・さいたま市を目指すなら、待機児童の問題に重点を置いて、子どもを持つ若い人にとって魅力的な環境づくりを進めるべきである。【再掲】
子ども	保育園に関しては、母親が就業している、いないに関わらず希望があれば入園できる仕組みがあればベストではないだろうか。【再掲】
子ども	人口の増加に保育園の整備が追いつかない地域がみられる。両者のマッチングとともに、今後の保育園整備計画などをいち早く市民に周知する必要がある。【再掲】
高齢	成果目標から見えてくる高齢者像に偏りがあるのではないかと。高齢の方々の多様な生活像は必要ではないかと。【再掲】

高齢	地域の公園を拠点として、子どもと高齢者の心の交流が促進できないか。子どもや親世代の居場所にもなるし、高齢者の居場所ともなる。
高齢	子どものうちから、地域に参画していくことが大切である。ノーマライゼーション意識や、男女共同参画意識の醸成にも効果があるだろう。
障害	義務教育における特別支援学級について、職員数の不足などにより十分な教育環境を得られていないと感じている。発達障害児への対応については、より充実した対応をすべきである。
健康	「社会からの孤立化を防ぐため、家庭や学校、職場など～連携」とあるが、登校できない子どもなど、きめ細かな対応が必要である。
健康	かかりつけ医の有無を重視すべきだと思う。介護などの最初の入口としても、頼りになる医師が身近にいる意義は大きい。【再掲】
健康	病床数が足りない現状は課題であるが、自宅で親を看取った経験から、訪問介護と訪問医療は本当にありがたいと感じる。今後は、在宅医療と看護がもっと身近になっていけば良いと思う。
健康	小児医療の充実は子育てにとって大事なことであり、明記すべきである。

◎「都市づくりの進め方」の検討の際に参考とするもの

施策	意見の概要
子ども	人口の増加に保育園の整備が追いつかない地域がみられる。両者のマッチングとともに、今後の保育園整備計画などをいち早く市民に周知する必要がある。【再掲】
健康	かかりつけ医の有無を重視すべきだと思う。介護などの最初の入口としても、頼りになる医師が身近にいる意義は大きい。【再掲】
健康	「保健、医療、福祉のサービスを総合的に提供する体制」とあるが、サービスを利用する市民としては分かりにくいと感じることがある。行政は、情報を市民に分かりやすく伝える努力をすべきである。
健康	病床数が足りない現状は課題であるが、自宅で親を看取った経験から、訪問介護と訪問医療は本当にありがたいと感じる。今後は、在宅医療と看護がもっと身近になっていけば良いと思う。【再掲】

◎「次期実施計画」策定の検討や事業実施の際に参考とするもの

施策	意見の概要
高齢	「高齢者が活躍できる場や機会の確保」とあるが、具体的な取組が見えない。高齢者が活躍できる場づくりは、今後、非常に重要となってくる。
高齢	無理に地域や社会への参画を促すのではなく、やりたい人・できる人はやりましょう、ということでも良いと思う。
高齢	退職して地域に戻ってきた男性の地域参画、社会参画を促していくことが重要である。イベントなどによるきっかけづくりが大切ではないか。
障害	ケアホームやグループホームなど、障害者が地域で暮らすための施設整備については、行政から地域への働きかけがもっとあってよい。
健康	一般病床数や医師の数が少ない現状はこの10年変わらない。埼玉県も考えていると思うが、市としても何か考えないと解消されないのではないかな。
健康	「自殺死亡者数が～特に15歳から44歳では死因別死亡順位の第1位」とあるが、問題・課題と認識しているならば、対応する施策を掲げるべきである。
健康	家庭の事情から子どもの食事を給食に頼っているケースがある。食育については十分に取組むべき。
健康	安心して暮らせる地域医療体制の充実に向け、今後は救急医療、がん医療、認知症対策が重要な課題となる。
健康	「各医療機関の機能連携と機能分担」を明確にすることが大事であり、市民や介護職員と医療との連携が大切となる。